中学３年　国語科　教材別テスト⑧「誰かの代わりに」模範解答・解説

教材別リメイク版　中学３年　国語　／　鷲田清一・光村図書『国語３』

【このテストの使い方】

本文は載せていません。**教科書『国語３』の「誰かの代わりに」のページを開いたまま**解答します。筆者は哲学者で、「自分らしさとは何か」を問う**論説文**です。この教材の山は、「**自分らしさは自分の内側を掘っても見つからない。他者との関係のなかで形づくられる**」という**考えの転換**です。選択問題で論の流れをたどり、記述問題でこの転換を自分の言葉にする練習をしてください。記述は、字数のあとに（　字）を示しています。**句読点も一字**と数えます。

配点一覧

観点	大問	内容	配点
知識・技能 50点	一	漢字の読み書き（20問）	１点×20＝20点
	二	語句の知識（論説文の語彙・対義語・四字熟語・慣用句）	２点×７＝14点
	三	文法の総まとめ（品詞と用法の識別）	２点×８＝16点
思考・判断・表現 50点	四	「誰かの代わりに」の読解（10小問）	50点
合計			**100点**

【出題のねらい】

①　**論説文の抽象語**（アイデンティティ・漠然・抽象・逆説・責任など）を正しくつかめているか。

②　十品詞の識別と、「**ない**」「**の**」「**だ・な**」「**られる**」の用法の識別、自立語・付属語、活用の有無を整理できているか。

③　現代の若者が「本当の自分」を**内側だけ**に探して行き詰まるという、筆者の**問題提示**をとらえられるか。

④　「**自分らしさは他者との関係のなかで形づくられる**」という筆者の考えの転換を、記述で言葉にできるか（最重要）。

⑤　「責任＝応答」の語源説明や、介護・看護・育児の例が、論のなかで**どんな働きをしているか**を説明できるか。

一　漢字の読み書き　（１点×20＝20点）

番号	解答	番号	解答
①	もさく	⑪	主体
②	かっとう	⑫	構造
③	きせい	⑬	比較
④	りんかく	⑭	交換
⑤	ゆだ（ねる）	⑮	感謝
⑥	こうてい	⑯	要求
⑦	にな（う）	⑰	信頼
⑧	おちい（る）	⑱	受け入れる
⑨	うなが（す）	⑲	貴重
⑩	たが（い）	⑳	唯一

小計　20点

【注意したい字】

②「葛藤」は「かっとう」。「かつとう」と小さい「っ」を書き忘れる誤りが多い。③「既成」は「すでにできあがっている」意。「規制」「既製」との書き分けに注意。④「輪郭」の「郭」を「廓」「殻」と書かない。⑤⑦⑧⑨⑩⑱は**送りがなまで**必要（⑩は「互い」の「い」、⑱は「受け入れる」）。⑧「陥る」は「おちいる」。「おとしいる」は他動詞「陥れる」。⑬「比較」の「較」は**くるまへん**。「比教」「比郊」は誤り。⑭「交換」の「換」は**てへん**。「交替」と混同しない。⑰「信頼」の「頼」を「頻」「類」と書かない。⑳「唯一」は「ゆいいつ」。「唯」を「准」「推」と書かない。

二　語句の知識　（２点×７＝14点）

番号	解答	解説
(1)	**イ**	「アイデンティティ」＝自分が自分であるという自己同一性。身分証の意味で使われることもあるが、この文章では「自分が自分であるという確かさ」の意。アは「役割」、ウは「序列」で別語。
(2)	**ア**	「漠然」＝ぼんやりしてとらえどころがないようす。「漠然とした不安」の形でよく使う。対になる語は「明確」「具体的」。
(3)	**ア**	「抽象」＝個々の具体的なものから共通する性質を取り出して、まとめてとらえること。対義語は「具体」。論説文では、具体例と抽象的なまとめを行き来して読むことが大切になる。
(4)	**依存**	自立 ⇔ 依存。「他立」は語として使わない。「孤立」は意味がずれるので誤り。
(5)	**一般（普遍・普通も可）**	特殊 ⇔ 一般／普遍。論説文では「特殊 ⇔ 普遍」の対が頻出。「特別」は類義語なので誤り。
(6)	**錯**	「試行錯誤」。何度もためして（試行）、まちがえながら（錯誤）答えに近づくこと。「索」「作」と書かないこと。
(7)	**粉**	「身を粉（こ）にして働く」＝自分の身をこまかい粉にするほど、骨身をけずって働く。「身を削る」と混同して「削」と書く誤りが多い。

小計　14点

三　文法の総まとめ（品詞と用法の識別）（２点×８＝16点）

番号	解答	解説（見分け方）
(1)	**カ（連体詞）**	「ある日」の「ある」は**活用せず、体言だけ**を修飾するので連体詞。動詞「有る／在る」と見まちがえやすいが、「ある日」は「ある日だ」のように言い切れず、「日」にしかかからない。
(2)	**ケ（助詞）**	「公園で」の「で」は、それだけでは意味をもたない**付属語**で、活用しない。よって**助詞**（格助詞）。活用する付属語＝助動詞との区別がポイント。
(3)	**ウ**	ウ「相談できない」＝打ち消しの**助動詞**（直前に「は」を入れられず、「ぬ」に置きかえられる＝「相談できぬ」）。 ア「明るくない」＝直前に「は」を入れられる（明るくはない）ので**補助形容詞**。イ「本がない」＝「存在しない」の意の**形容詞**。エ「せわしない」＝一語の形容詞で、**語の一部**。
(4)	**ウ**	ウ「私のだ」＝「私のものだ」と言いかえられるので**体言の代用**。 ア＝「考え」にかかる**連体修飾**。イ・エ＝「が」に置きかえられる（風が強い／君が言う）ので**主格**。
(5)	**イ**	イ「静かだ」＝言い切りの形が「〜だ」で、「とても」で修飾でき「静かな」と変化するので**形容動詞の活用語尾**。 ア＝名詞に付く**断定の助動詞**「だ」。ウ＝**過去の助動詞**「た」が濁ったもの。エ＝断定の助動詞「だ」の**連体形**「な」。

三　文法の総まとめ（品詞と用法の識別）（つづき）

番号	解答	解説（見分け方）
(6)	**ウ**	ウ「思い出**される**」＝自然にそうなる気持ちを表す**自発**。心情を表す動詞につくことが多い。 ア＝**受け身**（「友人に」＝動作主）。イ＝**尊敬**（主語が「先生」）。エ＝**可能**（「〜することができる」と言いかえられる）。
(7)	**4（つ）**	「私／は／彼／に／本／を／貸し／た」の八単語。うち**付属語**は「は・に・を・た」の**四つ**（助詞三つ＋助動詞一つ）。自立語は「私・彼・本・貸し」の四つ。
(8)	**イ・ウ**	イ「ゆっくり」＝**副詞**、ウ「大きな」＝**連体詞**で、どちらも**活用しない**。ア「美しい」＝形容詞、エ「静かだ」＝形容動詞は活用する。**イ・ウの二つそろって2点（完答）**。一つだけ、または余分に選んだものは0点。

小計　16点　／　知識・技能　合計　50点

【識別の決め手・早見】

①「**ない**」…直前に「は」が入る→補助形容詞／「ぬ」に置きかえられる→助動詞／「存在しない」の意→形容詞／切り離すと意味をなさない→語の一部。

②「**の**」…「が」に置きかえられる→主格／下の体言を修飾→連体修飾／「もの・こと」に置きかえられる→体言の代用。

③「**だ・な**」…「とても」で修飾でき「〜な」に変わる→形容動詞／名詞に付いて言い切る→断定の助動詞／「〜た」の濁音→過去の助動詞。

④「**れる・られる**」…動作主に「に」がつく→受け身／「〜できる」→可能／自然にそうなる→自発／主語が敬う相手→尊敬。

⑤**自立語か付属語か**…単独で意味がわかるか。**活用するか**…形が変わるか。この二つの軸で、十品詞はすべて分類できる。

四　「誰かの代わりに」の読解　（50点）

番号	解答	解説・採点のポイント
(1) 3 点	**イ**	筆者の鷲田清一は**哲学者**（臨床哲学・倫理学などが専門）。この文章は、「自分らしさ」「自分が自分であるとはどういうことか」という問いを立てて進む**論説文**である。医学・心理学・歴史学の研究者ではない。
(2) 4 点	**イ**	筆者はまず**現代の問題提示**をする。若者は「本当の自分」「自分らしさ」を**自分の内側だけ**にさがそうとするが、掘っても掘っても確かなものに行き当たらず**行き詰まる**。アは「同調」の話、ウ・エは別の話題。
(3) 5 点	**（例）他人と比べた優劣や、自分が交換可能かどうかで測ること。（27字）**	「**他人と比べた優劣**」（２点）＋「**交換できるかどうか（代わりがいるかどうか）**」（２点）＋「**～こと。**」の形で文末が整っている（１点）。 どちらか一方だけなら３点。「自分の努力で測る」「成績で測る」など、**他者との比較・交換可能性にふれていない**ものは０点。二十五～三十五字から外れたら－１点。
(4) 4 点	**イ**	「自分は誰かの代わりでしかない」＝**自分がここにいる意味がない**という感覚。これが**空虚さ（むなしさ）**を生む。アのような「気楽さ」ではないことが分かれ目。
(5) 10 点	**（例）自分らしさは、他者との関係の中で、誰かに必要とされ、応えていく経験を通して形づくられるということ。（49字）**	**この教材最大の論点**。次の三点で採点する。 ①「**自分の内側を掘って見つかるものではない**」という否定、または「**他者との関係の中で**」という条件（４点）。 ②「**他者から必要とされる／求められる経験を通して**」（４点）。 ③「**形づくられる・生まれる**」という結びと「～こと。」の形（２点）。 「自分で努力して見つける」「自分を見つめ直す」など**内側に向かう答え**は、方向が逆なので０点。四十五～五十五字から外れたら－１点。

四　「誰かの代わりに」の読解　（つづき）

番号	解答	解説・採点のポイント
(6) 4 点	**イ**	「逆説」＝一見矛盾しているようでいて、よく考えると真理をふくんでいる説。この文章では、自分の内側を探るのをやめて誰かのために自分を差し出したとき、かえって**かけがえのない自分**が立ち現れる、という「代わり」が「かけがえのなさ」に転じる考え方が逆説にあたる（題名の意味）。ア「反対意見」、ウ「まちがった説」、エ「順序を逆にした説」は別の意味。
(7) 5 点	**（例）責任とは、他者の呼びかけに応えることから生まれるのだと説明するため。（34字）**	「**責任**」と「**応答（他者の呼びかけに応える）**」が結びつくことを示す（３点）＋「〜ため。」の形で**役割・目的**として書けている（２点）。 「英語の勉強になるため」「語源を紹介するため」のように**語源の紹介そのもの**を目的にしてしまったものは０点。三十〜四十字から外れたら－１点。
(8) 4 点	**イ**	介護・看護・育児は、人と人とが深くかかわり合い、**相手が自分を必要としている**ことがはっきりしている場面で、こちらが**応答して引き受ける**関係が最も見えやすい。だから筆者の主張の**具体例**としてふさわしい。アは社会問題の訴え、ウは「単純な仕事」という誤った評価。
(9) 3 点	**イ**	①現代の若者の行き詰まりという**問題提示**→②「自分らしさは内側にある」という**通念の指摘**→③その**否定**→④他者との関係から見る**転換した見方の提示**→⑤**結論**。論説文の典型的な「否定から転換へ」の型。

四　「誰かの代わりに」の読解　（つづき）

番号	解答	解説・採点のポイント
(10) 8 点	**（例）部活で後輩の相談役を任され、自分でなければと思えたとき、代えのきかない自分を感じた。(42字)**	**【ルーブリック】** **A（8点）**…「**他者から必要とされた・頼られた具体的な経験**」が書かれ、かつ「**そのとき自分が取りかえのきかない存在だと感じた**」という結びがある。 **B（5点）**…経験は書けているが、「かけがえのなさ」との結びつきが弱い（例「人の役に立ってうれしかった」止まり）。 **C（2点）**…「かけがえのない＝大切」という**一般的な説明だけ**で、自分の経験が書かれていない。 **0点**…「自分は特別だから」「人と比べて優れているから」など、**他者との比較で優劣をつける**答え（筆者の論と逆）。 ※四十〜五十字から外れたら－1点。経験の内容は自由（部活・係・家族の手伝い・きょうだいの世話など）で、本文と同じ例でなくてよい。

思考・判断・表現　合計　50点　／　総合　100点

【この教材で落としやすいポイント（8つ)】

1. 筆者は**哲学者**。これは体験を語った随筆ではなく、**問いを立てて考えを進める論説文**である。
2. 「本当の自分は内側にある」は**筆者の主張ではなく、筆者が否定する通念**。ここを取りちがえると、記述がすべて逆向きになる。
3. 不安の正体は、自分の価値を**他人と比べた優劣**や**交換可能かどうか**で測ってしまうこと。「努力不足」の話ではない。
4. 「自分は誰かの代わりでしかない」という感覚が生むのは、気楽さではなく**空虚さ**。
5. **最大の論点**＝自分らしさは**内側を掘って見つけるもの**ではなく、**他者との関係のなかで、必要とされる経験を通して形づくられるもの**。
6. 「誰かの代わりに」引き受けることが、かえって**かけがえのない自分**を生む。この**逆説**が題名の意味である。
7. 「**責任（responsibility）＝応答（response)**」の語源は、ことば遊びではなく、**責任が他者との関係から生まれる**ことを示すための**論の支え**。
8. 介護・看護・育児の例は、**仕事の紹介**ではなく、**他者の求めに応答し引き受ける関係**が最もよく見える場として挙げられている。